

農業福祉コース 介護実習Ⅱ（10単位）について

北海道留寿都高等学校

<目的>

- ・基本的な介護技術を基に、一人一人に対応した介護技術を習得する。
- ・サービス利用者の現状や生活課題を適切に把握し、継続的なQOL向上を目指した介護計画を立案し、実践する。
- ・専門職としての自覚や責任を持つと同時に、利用者援助を多面的に考察する能力を身につける。
- ・多職種連携を図り、チームで利用者をケアしていることを理解する。
- ・介護福祉士の受験資格取得のための実習

<介護実習に向けた学習内容>

4年次

☆事前学習（3年次）

- ・教科学習 → 社会福祉基礎・・・高齢者や障害者に関わる福祉諸制度
介護福祉基礎・・・介護における安全確保と危機管理
介護総合演習・・・介護技術の確認、実習に対する心構え
介護過程・・・ケアプラン作成の方法、実施と評価
こころとからだの理解・・・終末期（疼痛緩和時等）や緊急時（呼吸困難時等）における医療職との連携のポイント、ICFの視点
生活支援技術・・・介護実技に関する学習、医療的ケア講義（喀痰吸引、経管栄養等）
- ・実技指導 → 4年次実習に向けての実技指導
麻痺、拘縮、褥瘡の有無等具体的な利用者の状態設定をし、残存機能を活用する
介助技術の習得（全介助、一部介助）
体位変換・・・仰臥位から側臥位、側臥位から端座位、端座位から立位
移乗介助・・・ベッドから車イス、車イスからベッド
着脱介助・・・片麻痺を想定した長座位・仰臥位・端座位での着脱
排泄介助・・・仰臥位でのおむつ交換
入浴介助・・・ベッドからストレッチャーへの移動、浴室内での体の洗い方、ベッド上での足浴、ベッド上での背部清拭
食事介助・・・長座位・側臥位での全介助、長座位での飲水介助、口腔ケア
医療的ケア・・・喀痰吸引、経管栄養等

☆実習（生徒の活動）

- ・コミュニケーション → ①多くの利用者と広く関わり、言語コミュニケーション（会話等）や非言語コミュニケーション（身ぶり、表情等）を通し、相手の感情をくみとる。
②特定の利用者と密接に関わり、言語コミュニケーション（会話等）や非言語コミュニケーション（身ぶり、表情等）を通し、相手の感情を

くみとる。

- ③コミュニケーション技法（受容・傾聴・共感等）を用いて、利用者の安心、意欲、納得、同意に向けた働きかけを行う。
- ④他職種の職員と関わり、コミュニケーションを通じて、利用者へのアプローチの仕方やそれぞれの職種の仕事内容等を理解し、多くの職種の観点を加える。
- ⑤専門職としての視点を持ち、利用者や職員とのコミュニケーションを通して、現場における専門職のあり方を理解する。

・利用者理解 → 特定の利用者に関わり（自己紹介、作業支援等）、利用者の抱えている病気や症状、生活環境、性格等を理解する。

フェイスシートの作成

→ 2、3年次同様、対象者を決め作成する。

- ①対象者から直接情報収集を行う。
- ②観察による情報収集を行う。
- ③職員からの聞き取りによる情報収集を行う。
- ④記録から情報収集を行う。

アセスメントシートの作成

→ 3年次同様、情報収集（健康状態、心身機能、身体構造、背景因子）を行い、生活課題（現在の活動や参加の状況を含め）を把握する。

- ①対象者から直接情報収集を行う。
- ②観察による情報収集を行う。
- ③職員からの聞き取りによる情報収集を行う。
- ④記録から情報収集を行う。
- ⑤生活課題を明確にする。
- ⑥課題解決の優先順位を決定する。
残存機能の活用、生きがい、身体機能の保持、現在の活動や参加の状況等の観点を踏まえて行う。
- ⑦利用者の生活課題を把握し、今後の活動や社会参加・地域参加に向けた分析を行う。

ケアプラン短期（1週間）・長期（1ヶ月程度）目標設定

→ 3年次同様、短期・長期目標の設定

- ①アセスメント内容から利用者を主体とした具体的な目標を設定する。
- ②実習担当職員、他職種職員との検討
介護職としての視点のみではなく、多職種連携に基づいた視点で行う。
- ③短期・長期目標の決定

ケアプランの立案

- ①短期・長期目標の具体的行動計画（援助内容、活動や参加を促進する内容）の立案
- ②実習担当職員、他職種職員との検討

介護職としての視点のみではなく、多職種連携に基づいた視点で行う。

③利用者・家族への説明

ケアプランの実施

- ①具体的支援の実施
- ②利用者の心身状態の経過の観察

ケアプランの評価と反省

- ①達成度の確認
- ②実習担当職員、他職種職員との評価・反省
介護職としての視点のみではなく、多職種連携の視点からの意見を踏まえて行う。
- ③評価に基づきケアプランを修正

- ・介護技術の実践 → 職員の見守りのもと、または指示のもとに単独で行う。
食事介助・・・食堂や居室において引水介助、食事介助、見守り、声かけを行う。
着脱介助・・・居室や入浴の際の脱衣室において、立位の状態、仰臥位の状態で行う。
排泄介助・・・居室やトイレにおいておむつ・パッド交換、尿器を使用して行う。
入浴介助・・・浴室においてに体を洗う、洗髪を行う。
移乗介助・・・居室においてベッド・車イス間、車イス・イス間への移乗介助を行う。
車イス介助・・・居室から食堂などへの移動を行う。
ベッドメイキング・・・居室におけるシーツ交換を行う。
手引き歩行・・・居室食堂間などの移動を行う。
清潔保持・・・清拭、居室清掃

- ・実習記録 → ①利用者へのアプローチの方法やそのときの相手の反応の記入
②実習担当職員、その他の職員に対するアプローチ方法の記入
③実践した介護技術の内容、指導を受けた介護技術の内容の記入
④実習内で考えたこと、感じたこと、印象に残ったこと等の記入
⑤実習内での課題の発見、その解決方法の記入
⑥1日ごとの実習目標の達成度の確認
⑦振り返りをもとにした翌日につながる内容の記入

- ・その他 → カンファレンスや事例検討会（利用者の状態変化や新しい課題等がないか、適切な介護サービス提供の状態についてなど、事例を用いて検討する会議）への参加
①介護職員のケアに対する考え方から、専門職としての視点を養う。
②他職種のケアに対する考え方から、チームとしての連携のあり方を理解する。

☆巡回指導（養成校の活動）

- ・実習目標の達成状況の確認
- ・利用者に対するアプローチ状況の確認
- ・実習担当職員、その他の職員に対するアプローチ状況の確認
- ・ケアプラン立案、実施状況確認（ケアプラン実施計画表の確認）
- ・実習記録の点検 → 1日ごとの目標が立てられているか。
実習内容が記入されているか。
反省と課題が記入されているか。

☆事後指導

- ・教科指導 → 介護福祉基礎・・・介護における安全確保と危機管理
介護総合演習・・・実習報告書の作成、実習報告会準備、礼状指導、ディスカッション
介護過程・・・評価に基づき修正したケアプランを活用し再立案、事例問題
こころとからだの理解・・・ICFの視点
生活支援技術・・・終末期における家族への支援、在宅・施設ターミナルケアでの医療との連携、医療的ケア講義・演習（喀痰吸引、経管栄養等）
- ・発表、共有、交流 → 実習報告会、実習報告書作成、事例検討会